

令和7年度 学校関係者評価報告書

大阪市立高見小学校協議会

1 総括についての評価

- 本年度の学校の自己評価は、概ね妥当である。
- 研究部を中心に算数科の研究に熱心に取り組みを進めていた。今後も引き続き学力向上に努めてほしい。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果から、全国・大阪市に比べて全体的に課題が見られた。
- 遅刻や不登校などの課題は、次年度も引き続き取り組んでもらいたい。
- 学校教育に無関心な家庭が多いと感じる。

2 年度目標ごとの評価

年度目標:安全・安心な教育の推進

- ① 小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88%以上にする。
- ② 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を82%以上にする。

○ 小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は88.1%だった。規範意識は育っている。ルールの確認や指導は今後も継続して行ってほしい。

年度目標:未来を切り拓く学力・体力の向上

- ① 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント以上向上させる。
- ② 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を66%以上にする。

○ 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント以上向上させるという目標については、4年0.4ポイント向上、5年1.2ポイント減少、6年0.5ポイント減少した。昨年度が高い結果だったことも、目標を達成できなかった要因であるかもしれないが、次年度に向けさらに研究を深め、学力向上に努めてほしい。

○ 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は70.1%だった。体力については大阪市全体の数値が低い。高見小はシャトルランの結果が男女ともに高い。最後までやりきるといふ取り組みが徹底していると感じる。

年度目標:学びを支える教育環境の充実

- ① 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の62%以上にする。
 - ② 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を100%にする。
- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の61.9%だった。さらに活用を進めてほしい。
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合は100%だった。

3 今後の学校園の運営についての意見

- ・ 子どもたちの成長は素晴らしい。様々な行事を経験するごとに大きな成長が感じられる。今後も子どもたちのために、様々な取り組みを進めてほしい。
- ・ 今年度実施した地域合同防災学習は、地域としても大変いい取り組みだった。来年度も体験の内容等を検討し、継続して取り組んでいってほしい。
- ・ 学校だけでなく、地域・保護者が一体となって、子どもの教育に関わっていかねばいけない。昨今、教育に無関心な保護者が増えていると感じる中、地域・PTAが協力して啓発をしていく。